

平成 2 9 年度  
事業報告書

〔 自 平成 2 9 年 4 月 1 日  
至 平成 3 0 年 3 月 3 1 日 〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団  
平成 29 年度事業報告書

〔 自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日 〕

本財団の平成 29 年度の事業は、平成 29 年度事業計画書に基づき、下記の事業等を行った。

### I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 1 号に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、平成 29 年度（第 44 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記の通りである。

- ・公募開始：平成 29 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 195 通発信  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに応募要項を掲載した。
- ・公募締切：平成 29 年 11 月 30 日 応募数 63 件  
(応募内訳 細菌学 43、寄生虫学 20)
- ・選考委員会：平成 30 年 1 月 31 日
- ・理事会決定：平成 30 年 2 月 8 日

#### 【第 44 回学術研究助成金受贈者】(敬称略)

| 氏名                    | 所属・役職                        | 研究課題   | 助成額(円) | 選考分野 |
|-----------------------|------------------------------|--|--------|------|
| あおぬま<br>青 沼 ひろか<br>宏佳 | 東京慈恵会医科大学<br>熱帯医学講座<br>助教    | 病原体媒介節足動物を対象とした新規診断キットの開発                                  | 100万   | 寄生虫学 |
| いでの<br>出野 さとし<br>智史   | 慶應義塾大学医学部<br>麻酔学教室<br>助教     | 術後肺炎予防を主眼とした漢方製剤による免疫補助療法の開発ー肺防御因子増強と肺組織保護効果の検証ー           | 100万   | 細菌学  |
| おがわ<br>小川 もとひこ<br>基彦  | 国立感染症研究所<br>ウイルス第一部<br>主任研究官 | インドネシア・ボゴール市および周辺地域のダニや動物におけるリケッチア症の浸淫状況に関する分子疫学調査         | 100万   | 細菌学  |
| おばら<br>尾原 ひであき<br>秀明  | 慶應義塾大学医学部<br>外科学<br>准教授      | 手術部位感染に対するオラネキシジングルコン酸塩消毒薬 vs ポピドンヨード消毒薬の多施設共同ランダム化有用性比較試験 | 100万   | 細菌学  |
| かみむら<br>上村 だいすけ<br>大輔 | 北海道大学<br>遺伝子病制御研究所<br>講師     | ゲートウェイ反射に基づいた中枢神経系への細菌ゲートの解析                               | 100万   | 細菌学  |
| たにぐち<br>谷口 ともよ<br>委代  | 群馬大学大学院<br>医学系研究科<br>助教      | 腸内細菌を含む新規宿主ーマラリア原虫相互作用の解明                                  | 100万   | 寄生虫学 |

|            |            |   |   |        |      |
|------------|------------|---|---|--------|------|
| つばかわ<br>坪川 | だいご<br>大悟  | 北里大学医学部<br>助教   | 経皮侵入性蠕虫ベネスタチン<br>の終末糖化産物受容体(RAGE)<br>を介する機能解明 | 100万   | 寄生虫学 |
| なむぐん<br>南宮 | ほう<br>湖    | 公益財団法人ライフ・<br>エクステンション研究<br>所附属永寿総合病院呼<br>吸器内科<br>副部長 | 肺非結核性抗酸菌症の疾患感<br>受性遺伝子の同定と新規創薬<br>への発展        | 100万   | 細菌学  |
| にいくら<br>新倉 | まもる<br>保   | 杏林大学医学部<br>感染症学講座<br>講師                               | 脂肪組織が関わる新たな妊娠<br>マラリア病態発症機構の解明<br>と診断技術の開発    | 100万   | 寄生虫学 |
| ひらまつ<br>平松 | ゆきひろ<br>征洋 | 大阪大学微生物病研究<br>所<br>分子細菌学分野<br>助教                      | 百日咳菌による咳発作メカニ<br>ズムの解明と治療薬開発への<br>応用          | 100万   | 細菌学  |
|            |            |   |   | 1,000万 |      |

## II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び大山健康財団賞・大山激励賞選考規程第2条に基づき、平成29年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に吉田 修氏、大山激励賞に赤尾和美氏をそれぞれ受賞者に決定した。

平成30年3月15日（木）に霞ヶ関東海倶楽部において贈呈式を開催し、大山健康財団賞受賞者には賞状・記念メダル・副賞100万円を、大山激励賞受賞者には賞状・副賞50万円を贈呈した。

- ・公募開始：平成29年10月1日 推薦依頼24通発送  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。
- ・公募締切：平成29年11月30日 推薦数：大山健康財団賞：2件・大山激励賞：5件
- ・選考委員会：平成29年12月21日
- ・理事会決定：平成30年2月8日

### ◇平成29年度（第44回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○吉田 修よしだ おさむ 特定非営利活動法人 TICO 代表理事  
(TICO : Tokushima International Cooperration)  
医療法人 さくら診療所 理事長  
医師 (満59歳)

#### < 功労の内容 >

吉田修氏は、宮崎大学医学部を卒業後、病院勤務の傍ら1989年から青年海外協力隊に参加され、アフリカの小国マラウイで入院患者900人に対し医師5人という劣悪な状況の中で2年間外科医として勤務され、帰国後、2年ほど病院勤務するも途上国支援をしたいという思いが拭えず、アジア医師連絡協議会（現在は AMDA）のスタッフとして日本での臨床の傍ら様々な途上国支援、自然災害や紛争地への緊急支援（イラン震災やレバノン空爆、パプアニューギニア津波、ルワンダ内戦、モザンビーク帰還難民支援）に携わられた。1993年に「徳島で国際協力を考える会」（後に TICO に改称）を設立され、1995年よりザンビアの地域保健医療活動に関わり、1997

年より TICO として本格的にザンビアでの活動を開始された。1999 年には医療法人さくら診療所を開設され、国内での臨床の傍ら「国際協力を続けたい」という医療関係者の育成にも尽力されている。この間、ザンビア首都での救急隊設立や、農村部のプライマリーヘルスケアプロジェクトを 10 年以上支援され、カンボジア首都での救急隊設立や地方都市での公立病院の救急医療技術支援に 10 年以上携わられている。

現在は、医師、臨床工学士から構成されるチームで、ザンビア医師による心臓外科手術実施の実現に向けた技術指導を行っており、ザンビア保健省、ザンビア大学医学部付属教育病院からも大きな期待がかけられている。

こうした現地活動にかかる費用は、徳島での診療活動や農業活動と、TICO を始め吉田氏の活動に賛同する方々からの寄付収入やボランティア活動で賄われている。

#### ◇平成 29 年度大山激励賞受賞者（敬称略）

○赤尾 <sup>あかお</sup> <sup>かずみ</sup> 和美 特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN 代表  
ラオ・フレンズ小児病院 アウトリーチプログラムディレクター  
看護師（満 54 歳）

#### < 功労の内容 >

赤尾和美氏は、杏林大学医学部付属看護専門学校を卒業後、看護師資格を取得され、杏林大学病院で 4 年間外科病棟担当の看護師業務に従事された後、1992 年に渡米され、ハワイ州にて看護師資格および HIV テスト・カウンセラー資格を取得された。

1994 年から 1999 年まで米国ハワイ州ワイキキヘルスセンターにて HIV 専門クリニック看護師として HIV 患者のケアにあたり、1999 年から 2013 年まで小児看護のスペシャリストとして要請を受け、カンボジア国シェムリアップのアンコール小児病院（AHC）にて小児 HIV 患者の検査、診療、訪問看護などに従事された。

2009 年には事務局責任者として NPO 法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN を立ち上げられ、2011 年より NPO 法人日本イラク医療支援ネットワーク（代表：鎌田実医師）からの要請を受け、イラクにてプロジェクトアドバイザーとして院内感染に対する視察・研修・評価・緩和ケアに関するレクチャーなどを実施されたほか、2013 年にはミャンマーにて現地人によって運営される団体であるゴールド・ミャンマーへの支援を開始された。

2013 年に AHC を退職されラオスに移住後は、ラオ・フレンズ小児病院の立ち上げに関わり、アウトリーチプログラムディレクターとして院内感染対策、医療活動支援、訪問看護、小児 HIV 感染症への医療支援などに尽力されている。

### Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 3 号に基づき、平成 29 年 4 月 1 日から 4 月 30 日の期間で本財団のホームページに募集要項を掲載し募集を行なった結果、2 件（うち 1 件は 3 つの学術集会の合同開催）の応募があり、平成 29 年 5 月 18 日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において、下記の事業に支援することを決定した。

1. 第 19 回国際無菌生物学シンポジウム（第 50 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会及び第 39 回国際医学微生物生態学会との合同開催）に 75 万円助成した。同事務局より以下の報告があった。

・開催期間：平成 29 年 6 月 7 日（水）～6 月 10 日（土）

- ・開催場所：東京ガーデンパレス（東京都文京区）
- ・大会長：一戸辰夫（広島大学原爆放射線医科学研究所血液・腫瘍内科研究分野 教授）  
（第50回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会・第39回国際医学微生物生態学会会長 神谷 茂：杏林大学医学部感染症学講座 教授）
- ・参加者数：110名（海外30名）

【開催概要・成果】

合同会議は3日間の会期中に、会長講演2題、佐々木正五記念講演1題、シンポジウム主題5題（発表演題22題）、フリーペーパー口頭発表14題、ポスター発表28題の発表が行われた。

その内容は、学会ホームページと日本無菌生物ノートバイオロジー学会会誌、無菌生物（Journal of Germfree Life and Gnotobiology）第47巻1号、第47巻2号に事前および事後に掲載された。プログラムおよび抄録集は200部印刷され、参加者および後援団体に配布した。その結果、最新の研究内容が発表され、多岐にわたる分野の参加者と密度の濃いディスカッションが行われ、国内外の研究者間の交流や情報収集が活発に行われた。

【会計報告】

①抄録集印刷：244,396円、②ノベルティ制作費：71,914円、③プログラム委員会交通費：20,367円、④国内交通費・旅費：46,300円、⑤会場機材（プロジェクター等）：223,938円、PCレンタル費（一部負担）：143,085円

2. 第2回抗酸菌研究会に25万円助成した。事務局より以下の報告があった。

- ・開催期間：平成29年11月23日（水）～11月24日（木）
- ・開催場所：国立感染症研究所戸山庁舎・第一会議室（東京都新宿区）
- ・大会長：大原直也（岡山大学医歯薬学総合研究科 教授）
- ・参加人数：参加者：102名（発表演者24名）

【開催概要・成果】

結核、ハンセン病などをはじめとした抗酸菌感染症は、熱帯・亜熱帯地域を中心に蔓延しており、医学・医療の発展した今日に於いても未だ地球規模での脅威である。これに対して、新たな予防・診断・治療法を開発・確立することは急務である。抗酸菌を対象とした基礎・応用研究に従事する国内の研究者は限られており、効率的に研究を推進するためには人的資源を有機的に結び付ける研究者ネットワークの構築が重要である。また、こうしたネットワークを基盤として若手研究者を育成していくことも研究の進展と発展性の維持に不可欠であり、抜本的な感染症対策、結核・抗酸菌症の制圧に向けたオールジャパン体制の確立に繋がっていく。

本研究会は、日本国内の大学や公的機関に属する抗酸菌研究者が集まり、最新の研究成果を報告・共有することで活発な討論を促し、重厚な研究者ネットワークを構築することを目的として開催されている。また、関連した研究を志す若手研究者が活躍できる場を提供することは、長期的視点において研究の質を維持する上で極めて重要であり、本会はそういった場として機能することを目指している。

【会計報告】

本助成金（25万円）については、研究会において発表を希望した若手研究者の旅費（交通費および都内の宿泊費）に充てられた。旅費支援希望者は国内からの7名および海外留学中の2名で、全員が全日程に参加、発表を行った

#### IV. 年報作成

平成27年度第42回学術研究助成金受贈者の業績報告集（年報No.42）を作成した。

#### V. 寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第40次派遣団に寄附金30万円を供与した。同研究会より下記の報告があった。

派遣期間：平成29年7月15日～8月27日（44日間）

訪問国：ブラジル

団 長：武林亨先生 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授

##### 【活動内容】

本年度の第40次派遣団は、本研究会の設立趣旨である『医の原点の実体験』、『医学、医療を通じた国際交流』及び上記の『各地域に即した現地貢献の探求』を基本指針とし、独自の目標として『文化的・社会的背景に応じた理想医療の探求』を掲げ活動を行なった。

本研究会は、創設以来ブラジルにおける活動をその原点としていたが、活動地域を徐々にアフリカや大洋州へと広げてきた。これにより世界の多様な地域における医療を実体験し、数々の実績を重ねてきた。私ども第40次派遣団は、ブラジル1か国のみならず、ミクロな視点に立ち返り、同じ国内においても各地域・民族が求めている医療の相違を調査してきた。また、ブラジル国内で過去派遣団の活動を継続し、過去の手法、結果をもとに考察を発展させていくことで、国際医学研究会として長きに渡り継続していく活動の一貫性及び現地還元の可能性を探求した。以下、本年度の活動目標とその具体的な活動内容を記す。

##### 1. 「医の原点」の実体験

- ・アマゾナス州マナウスにおいて、アマゾン川流域の無医村をめぐる巡回診療船に同乗し、医療活動を実施した。
- ・シンダー・インディオ国立公園を訪れ、そこで生活をする先住民族（インディオ）の村を訪問し、巡回診療及び健康調査を行った。

##### 2. 医学、医療を通じた国際交流

- ・現地大学医学部や医療施設を訪問し、実習を行った。
- ・現地医学生と「第30回日伯医学生会議」を開催し、ポルトガル語で医学的課題を発表、討論を行った。
- ・団長の武林亨先生が日本における最新の公衆衛生学の医学的知見について講演し、現地医療従事者と討論を行った。
- ・世界を舞台に活躍されている三田会の先輩方を訪問した。

##### 3. 各地域に即した現地貢献の探求

- ・マツト、グロッソ州クイアバにおいてシャバンテ族を訪問し、彼らの伝統医療の実際と、先住民族の医療に対する認識を学んだ。
- ・過去派遣団が健診を行ってきたアラカチ市の Professor Antonio Monteiro 学校にて学童健診を実施し、成果を比較検討した。

##### 4. 文化的・社会的背景に応じた理想医療の探求

- ・ブラジル各地の医療機関を訪問し、実習を行うことで、地域ごとの医療の現状を体感する。
- ・ブラジル先住民族を複数訪問し、各民族の歴史・文化・社会面から理想医療について考察する。

## VI. 贈呈式及び祝賀会

平成29年度の学術研究助成金並びに大山健康財団賞・大山激励賞の贈呈式・祝賀会は下記の通り行った。

- ・開催日時：平成30年3月15日(木) 午前11時30分～午後2時30分
- ・開催場所：霞が関ビル35階 霞ヶ関東海倶楽部

### ◇贈呈式（敬称略）

- ・開会の挨拶及び選考経過報告 竹内勤理事長が欠席となったため神谷茂専務理事が代行
- ・学術研究助成金受贈者代表挨拶 小川 基彦
- ・大山健康財団賞受賞者挨拶 吉田 修
- ・大山激励賞受賞者挨拶 赤尾 和美
- ・『記念講演』 吉田 修
- ・閉会の挨拶 中里 博

◇祝賀会：贈呈式終了後に開催

## VII. 総務事項

『理事会』（平成29年度）（敬称略）

### ◇第13回理事会

（平成29年5月18日）出席者 理事6名 監事2名

1. 「平成28年度事業報告書（案）」の承認
2. 「平成28年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「平成29年度・平成30年度理事候補者（案）」の承認
4. 「平成29年度～平成32年度評議員候補者（案）」の承認
5. 「平成29年度・平成30年度学術研究助成金選考委員・顕彰者選考委員」の選任
6. 「平成29年度学術集会支援助成金の贈呈対象学術集会」の決定
7. 「第10回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
8. その他、報告事項
  - ・平成29年度の執行理事の報告事項

### ◇第14回理事会

（平成29年6月22日）出席者 理事7名 監事2名

1. 「平成29年度・平成30年度代表理事（理事長）」の選定
  - ※代表理事に竹内 勤理事を選定
2. 「平成29年度・平成30年度執行理事（専務理事・常務理事）」の選定
  - ※専務理事に神谷 茂理事、常務理事に中里 博理事を選定
3. その他、報告事項
  - ・代表理事は6月27日に登記する。

### ◇第15回理事会

（平成30年2月8日）出席者 理事6名 監事2名（竹内 勤理事長欠席）

1. 「第44回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第44回大山健康財団賞・平成29年度大山激励賞受賞者」の決定
3. 「平成30年度事業計画書（案）」の承認
4. 「平成30年度正味財産増減予算書（案）」の承認

5. 「第 11 回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認

6. その他、報告事項

・平成 29 年度の贈呈式は平成 30 年 3 月 15 日 11 時 30 分から霞ヶ関東海倶楽部で開催

『評議員会』（平成 29 年度）（敬称略）

◇第 10 回評議員会（定時評議員会）

（平成 29 年 6 月 22 日） 出席者 評議員 6 名 理事 6 名 監事 2 名

1. 「平成 28 年度事業報告書（案）」の承認
2. 「平成 28 年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「平成 29 年度・平成 30 年度理事」の選任

◇新任理事：岡田 護

4. 「平成 29 年度～平成 32 年度評議員」の選任

◇新任評議員：大山治憲、影島一吉、齊藤冠司

◇退任評議員：浅見薫子、大山龍弘（高田正昭：平成 28 年 2 月 3 日逝去）

5. その他、報告事項

・代表理事、理事、評議員の登記は平成 29 年 6 月 26 日に登記完了。

◇第 11 回評議員会

（平成 30 年 3 月 15 日） 出席者 評議員 7 名 理事 5 名 監事 2 名（竹内 勤理事長は欠席）

1. 「平成 30 年度事業計画書（案）」の承認
2. 「平成 30 年度正味財産増減予算書（案）」の承認
3. その他、報告事項

・平成 29 年度公益財団法人大山健康財団贈呈式（平成 29 年 3 月 15 日 11:30 から）

## VIII. 内閣府関係

『定期提出書類等』（電子申請）

### 1. 事業報告等の提出

・平成 28 年度の事業報告書及び決算報告書の提出（電子申請による関連報告を含む）

提出：平成 29 年 6 月 29 日、補正・修正：平成 29 年 8 月 31 日

完了：平成 29 年 11 月 30 日

### 2. 変更の届出

・任期満了に伴う平成 29 年度～平成 32 年度の評議員の届出（平成 29 年 6 月 22 日付就任）

・任期満了に伴う平成 29 年度～平成 30 年度の理事の届出（平成 29 年 6 月 22 日付就任）

・任期満了に伴う平成 29 年度～平成 30 年度の代表理事の届出（平成 29 年 6 月 22 日付就任）

※届出：平成 29 年 7 月 4 日、完了：平成 29 年 8 月 28 日、登記：平成 29 年 6 月 26 日

### 3. 事業計画書等の提出

・平成 30 年度の事業計画書及び正味財産増減予算書の提出

提出：平成 30 年 3 月 29 日、

以上



**[附属明細書]**

平成29年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年5月

公益財団法人 大山健康財団